

神奈川は？ 体操着に変更、「悩みは夏」の声

西日本新聞の記事をネットニュースで見たという秦野市在住の小中学生の子を持つ母親から、「秦野や県内の中学校ではどんな対応をしているのでしょうか。入学後が心配です」という投稿が「追う！マイ・カナガワ」取材班に届いた。朝の登校時や授業中の寒さは今がピーク。秦野と横浜の状況を調べた。（最上翔、服部エレン）

秦野

記者は秦野市立本町中学校に行ってみた。靴をスリッパに履き替え廊下を歩くと、足元から冷気を感じる。小山田幸弘校長に読者の質問を伝えると「大丈夫です。換気中に寒いと思ったら速慮なく着てください」と即答した。

同校では授業中は窓を開けず、合間の10分の休み時間に開放。そ

の間は温度が下がってしまうが、防寒着を着る生徒はいないという。生徒の一人は「朝の換気が一日で一番寒い。制服の内側にジャージを着られるが、動きにくいので、足にブランケットを掛けたりしている」と話す。

むしろ、悩みの種は夏場という。換気で冷気が放出されると、教室が換気前の室温に戻るにはかなりの時間を要する。校長は「冬は着込めば寒さはしのげるけど、夏の対策は難しい」と打ち明けた。

同市の佐藤直樹教育長も「安心してください」と話す。県内唯一の盆地を抱えて寒暖差が大きく、朝晩の寒さが厳しい同市では、市立中9校の教室はいずれも冷暖房が完備されている。

市では昨年5月、教育現場向けの新型コロナ対応のガイドラインを定めた。「国や県の指針は秦野に適しているかどうか。現場が困る内容もあったので」と教育長。改訂を7回重ね、換気前は室温を高くし、空気を入れ替えても寒くないようにするなど現状に合

わせた対応に変えてきた。

横浜

横浜市もガイドラインを臨時改訂、換気や防寒対策を学校に周知している。

換気は▽可能な限り、常時換気▽常時換気が難しい場合は30分に1回以上数分間程度、窓を全開▽授業後は、窓・ドアを開放—などと記載し、具体的な対応は「各学校で判断」（市の担当者）としている。防寒対策も現場に判断を委ねるが、室温低下で健康被害が生じないよう「衣服の着用は柔軟に対応」と求める。

市立高田中学校（港北区）では、授業中は廊下側の扉の上部の小窓2カ所を10秒ほど、扉をわずかに開ける。通常の倍の台数の換気扇を取り付け、常時稼働するなど工夫している。休み時間は大半の窓を全開に。教室の暖房の温度を例年の19度よりも高く設定しているという。

同校では休校期間を終えた昨年6月、登下校や授業中の服装を通



コロナ対策で、体育館の窓は開放されていた＝秦野市立本町中

常のプレザーではなく体操着に変更。「制服よりも頻繁に洗濯しやすく、衛生対策になるため」（横田由美子校長）とし、冬場も継続している。

体操着下の服装は自由で、授業中のコート類着用も可だ。校長は「子どもたちの健康が第一。一人一人の自主性を大切に今後も対策に当たりたい」と話した。

QR code and text: マイカナに友だち登録して情報をお寄せください! LINE